

教育実習生の省察の変容（2）

○岩澤美咲（上越教育大学大学院）

高橋知己（上越教育大学）

キーワード：教育実習，省察，実習記録ノート

問題の所在と目的

Schön (1983) は教師の省察の重要性を指摘し、「行爲の中の省察」の概念を構築した。湯口 (2015) は、「教育実習においては、子どもと毎日関わる中で発現する出来事との出会いが経験となり、そこでのような思考をして行動したかという「行爲」の変化を丁寧に点検すること」が求められると指摘した。本研究では、教育実習生に焦点を当て、彼らの成長の過程を教育実習中の出来事や反省等を毎日記入する実習記録ノートにより実習生の視線の変容に注目し、カテゴリーを設定、分析し、実習生の変容過程について検討することを目的とする。

調査及び分析の方法

教員養成系の大学生 3 名が行った中学校教育実習（15 日間）の実習記録ノート内の経過日及び研究・反省・感想などに関する記述（25,545 文字）を分析の対象とした。分析の手続きとしては、① KH Coder を用いて形態素解析を行い、② その分析結果から「外部への視線」と「内部への視線」の 2 つの枠組みに分類した。外部への視線とは、「記述者が観察する周囲の状況への認識」であり、内部への視線とは、「記述者自身が感じた自らの内面への語りをさす」と定義した。そして、③カテゴリー分析を行った。カテゴリーの分類、設定に当たっては、M-GTA(木下、

2007) の手法を参考にしながら、1: 概念化(文のまとまりで分類)、2: カテゴリーの統合(概念を整理)、3: 確認(分析の経過を指導教員と大学院生で見直し)、4: 修正、5: 再確認、という手順で行った。

結果と考察

調査の結果からカテゴリーは、Table 1 に示したように分類できた。実習の最後に自分の行動や言動を振り返りながら、改めて教職を志す気持ちが強まること、そして教育に対してより真剣に向き合っていくことなどが分かった。教職への意欲や子供との関わりに出現数が多く見られたことから、教育実習では自分自身や子供と向き合い、省察しながら行動し、さらにその行動を次に活かしていくことが分かった。

引用・参考文献

Donald A. Schön (1983) The Reflective Practitioner: How Professional Think in Action, Basic Books 佐藤学・秋田喜代美(2001) 監訳 『専門家の知恵—反省の実践家は行為しながら考える』 ゆみ出版
湯口雅史 (2015) 「反省の実践を内容にもつ教育実習の提案: 「参加型教育実習」カリキュラムの可能性」 鳴門教育大学研究紀要 第 30 巻 pp. 367-377.

Table 1 教育実習記録ノートのカテゴリ

A 外部への視線			
カテゴリー	サブカテゴリー	定義	出現数
担任教師	授業中の様子	先生の授業を拝見していると、そのような言葉と言葉のキャッチボールが授業のいたる所で行われていることがわかった。	19
	子供との関わり	校長先生もおっしゃっていましたが、「卒業式は、何も変えられない良いもの」なんだろうなと思います。	3
	教育に対しての思い・考え	生徒指導に関する講話では、「人は、ルールに従うのではなく、ムードに従う。」という言葉があった。	6
生徒(子供)	授業中の様子	教科の違ひももちろんあるだろうが、それにしても2年2組の生徒の様子が、笑いが起こる場面があったり、楽しそうな雰囲気での授業だった。	12
	子供(同士)との関わり・様子	各部からの応援も今まで見たこともない変わった独自のもので、楽しそうでした。	17
	実習生との関わり	生徒会長の歓迎の言葉の中で、「授業は、教師と生徒が共に作り上げるものです。」という言葉があった。	11
実習生	他家習生の様子・行動	これまで授業をしてきて、この目のために教材研究や指導案作成など、大変な準備をしてこられたと思う。	2
	子供との関わり	活動を見てみると、生徒の楽しそうな姿が印象的で、とても良い雰囲気での活動を終えられたように感じた。	62
事物に関する記述		普段話せない子とコミュニケーションがとれたり、口では言えないことが書けたり、本当はこんなこと思っているんだということを知ることができるのが、BESTの良いところであると思います。	3
B 内部への視線			
カテゴリー	サブカテゴリー	定義	出現数
教職を志す	授業の構想	しかし、そうは言っても、授業の方向性を決めなければならないので、様々な状況を想定して準備していく必要があると思った。	79
	教職への想い・熱意	私も、教師になったら、1人1人の生徒との出会いを大切に、日々できる限り全力でぶつかり、生徒に大きな影響を与えられる存在になりたいと感じました。	44
	教員としての意識・心得	授業中の場面で、何もおかしなことを言っているわけではないのに、へらへらしていたら、自分の伝えたい言葉が伝わらず、反対に教師の表情がガチガチに固まっていたら、生徒の心にも余裕は生まれない。	39
	教育に対しての思い・考え	そして授業が終わった時に、教師と生徒がお互い満足して終わることが大切であると思う。	18
コミュニケーション	子供	私としても、今まであまり話すことができなかった生徒たちとたくさん話すことができたし、生徒たちも少しずつ気を許して話しかけてくれることが多くなったので、良かったと思います。	28
	教師	ご指導よろしくお願ひ致します。	2
	実習生	お互いの授業を見て、意識し合い、実習生同士で切磋琢磨していくことが出来れば、より良い教育実習になるのではないかと感じた。	4
内省	授業に関する内省	また、前回自らの反省で全体のために授業を進めるのか、個人のために待つのかと指導案に書き込んでいたにもかかわらず、同じ過ちを犯してしまっ	36
	生活に関する内省	明日は、万全の体調で臨んでいきたいです。	4